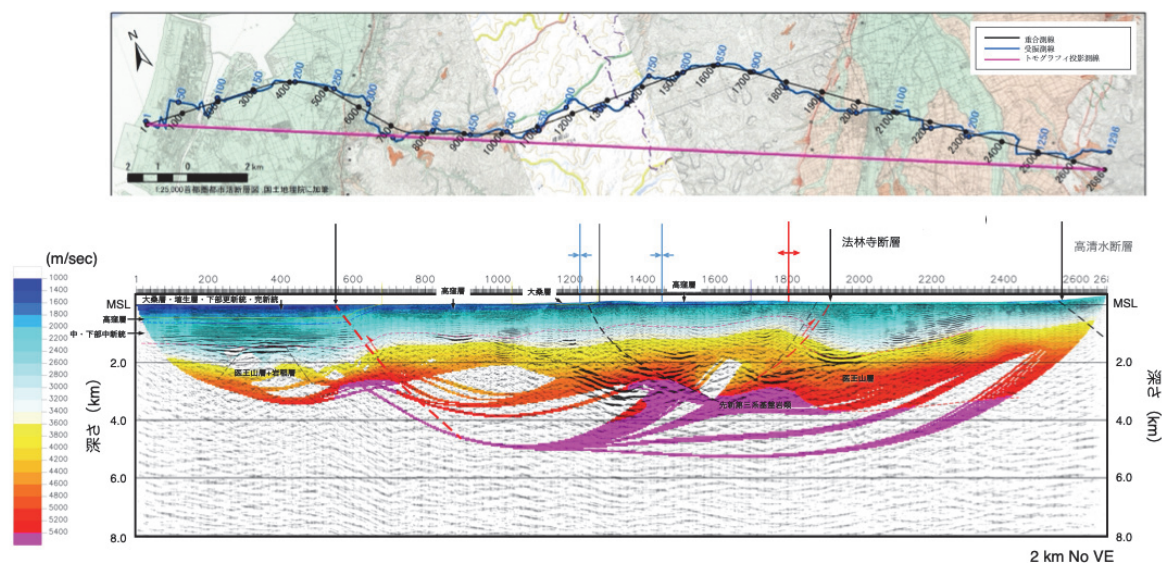
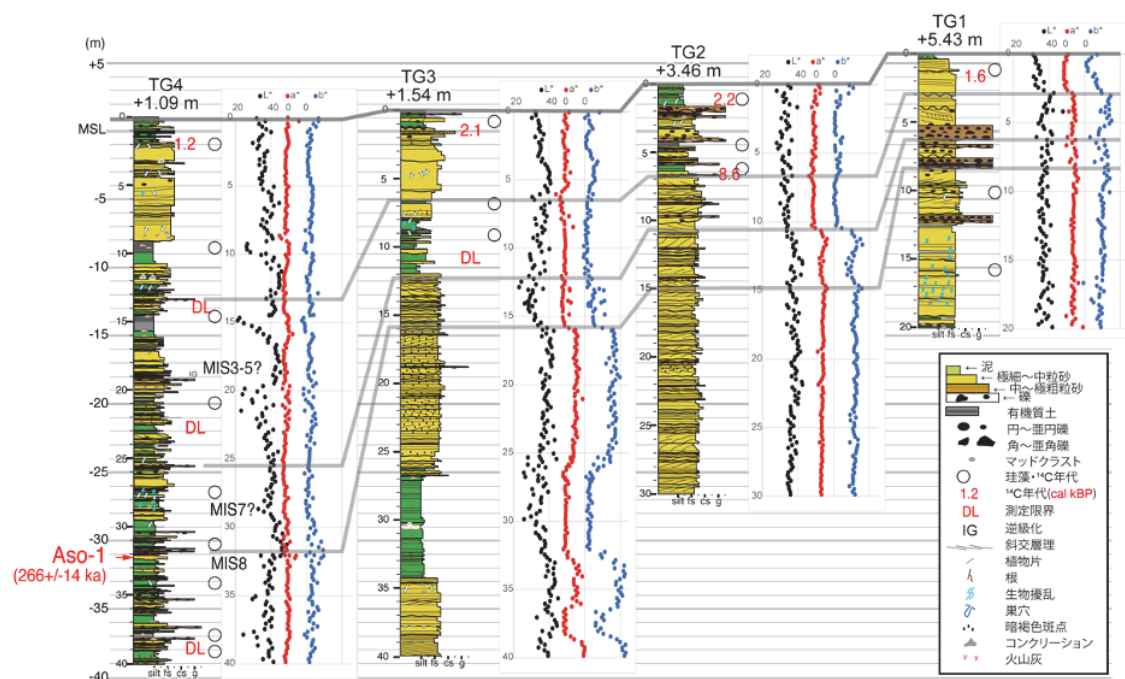


1. 1 活断層の詳細位置・形状・活動性解明のための調査



深部構造探査「内灘-南砺測線」による地下構造断面

森本・富樫断層帯と砺波平野断層帯（西部）を横断する測線長約 34 km の反射法地震探査・屈折法地震探査を行い、森本断層・法林寺断層の深部形状や金沢平野・砺波平野下の第四系・新第三系堆積盆地構造・速度構造が明らかになった。



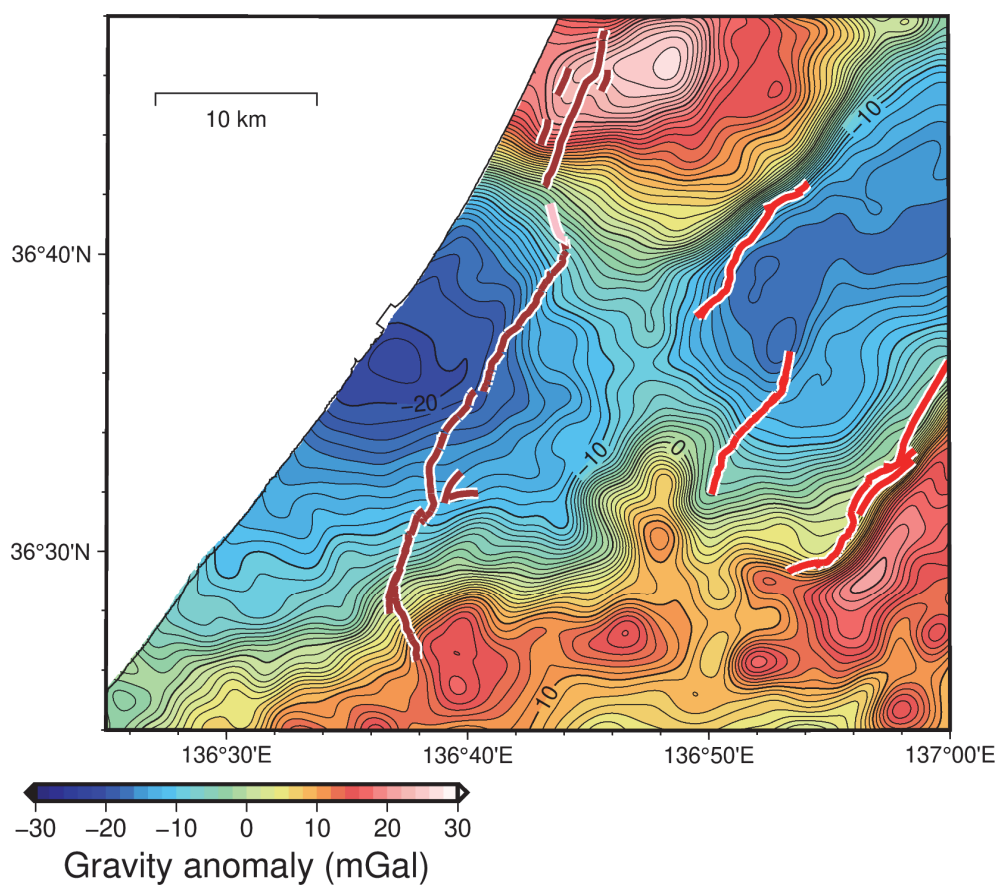
森本断層・利屋地区における群列ボーリングによる活動性調査

森本・富樫断層帯北部・森本断層の完新世撓曲崖地形を横断する測線で実施した群列ボーリング（4 箇所・計 130 m）による地質断面図。崖基部のさらに西側で Aso-1 火山灰層が分布することや、浅部高分解能反射法探査の結果などから、断層の先端は撓曲崖よりも西側に位置する可能性が示唆された。

1. 2 重力探査に基づく地下構造調査

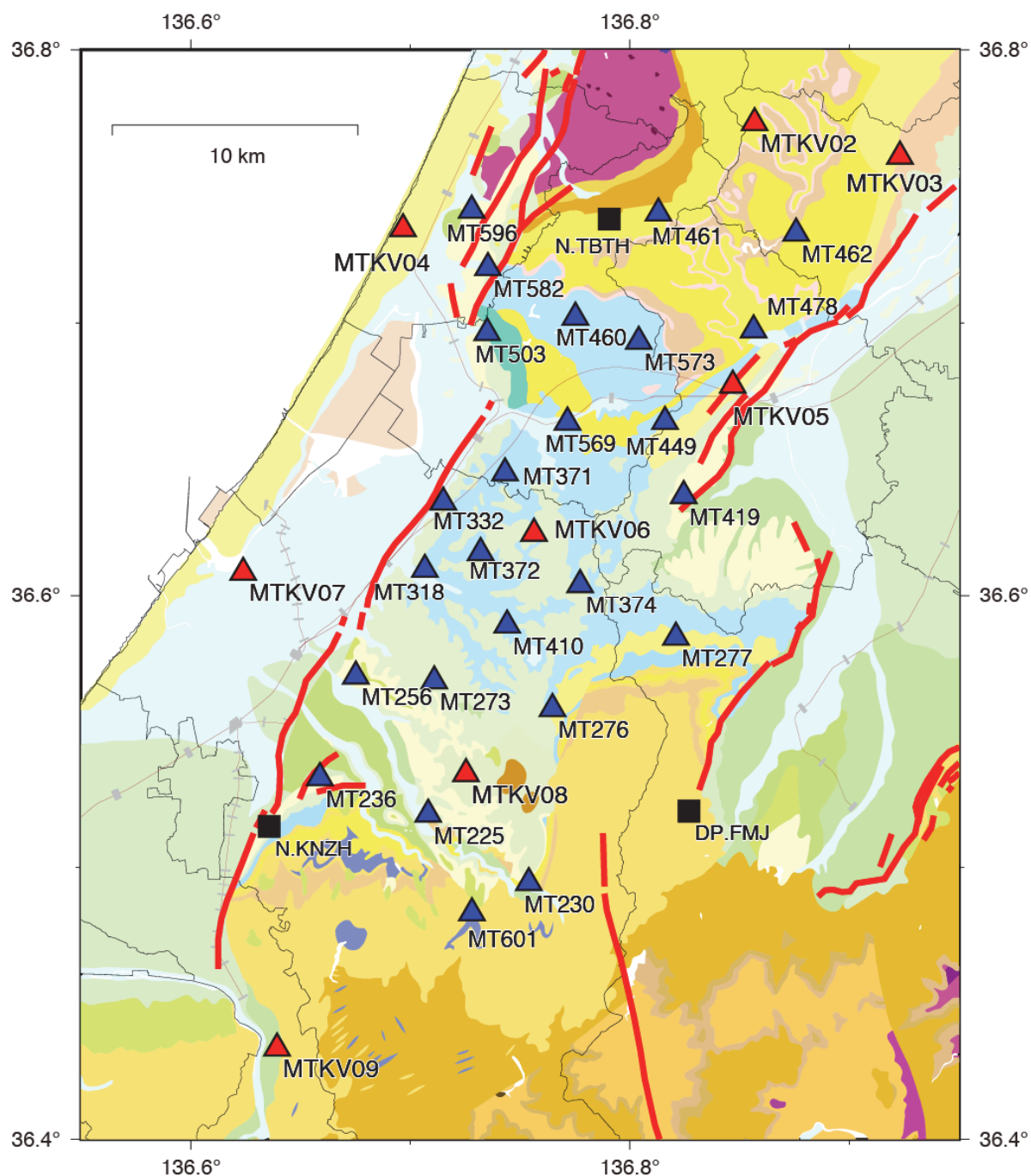


金沢市倉ヶ嶽町での重力測定。



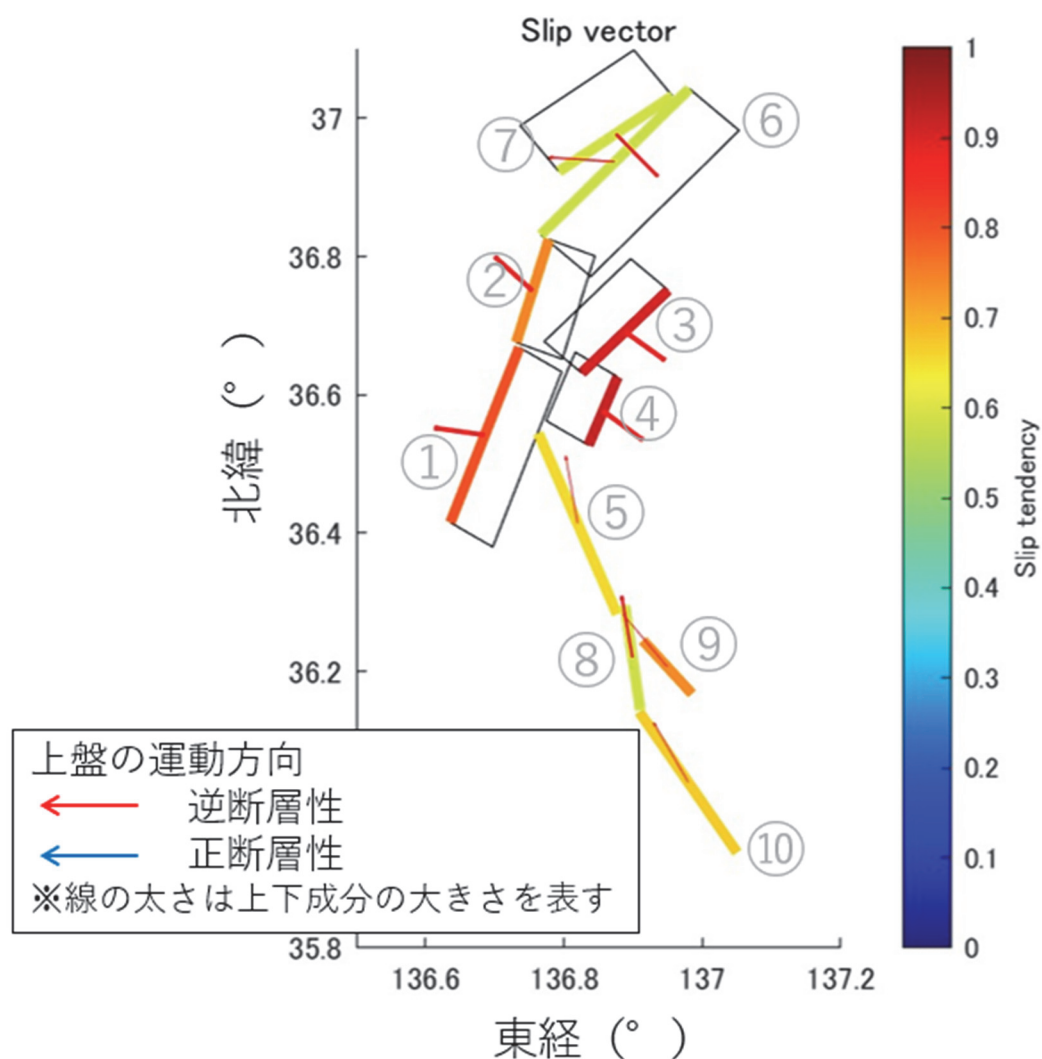
平面トレンド成分の除去及び遮断波長 4 km のフィルター処理後の重力異常図
コンター線の間隔は 1 mGal である。

2 断層帯周辺の地殻活動の現状把握調査



本事業による臨時稠密地震観測網（MTMT-net）の配置図

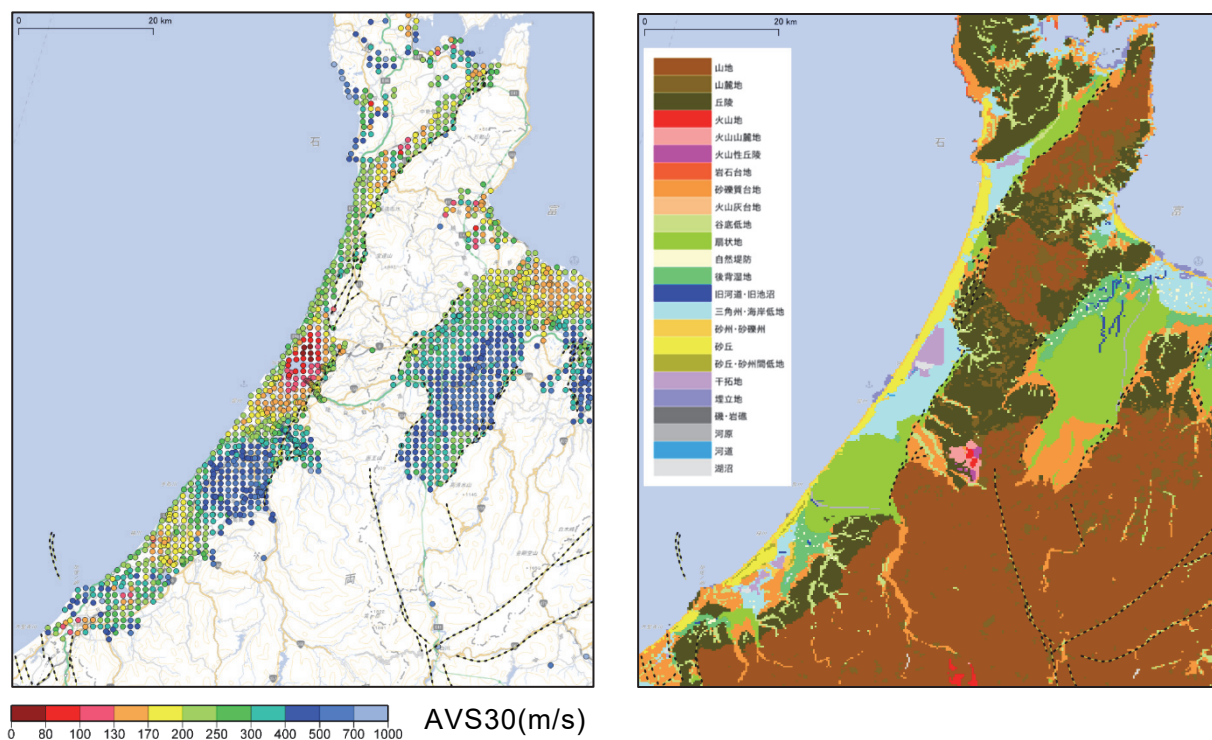
青三角はMTMT-net観測点、赤三角はMTKV-net観測点、黒四角は既往高感度地震観測点（Hi-net、気象庁、大学観測点）。基図は20万分の1日本シームレス地質図V 2（産総研地質調査総合センター）、活断層位置は産総研活断層データベース、鉄道路線および行政界は国土数値情報による。



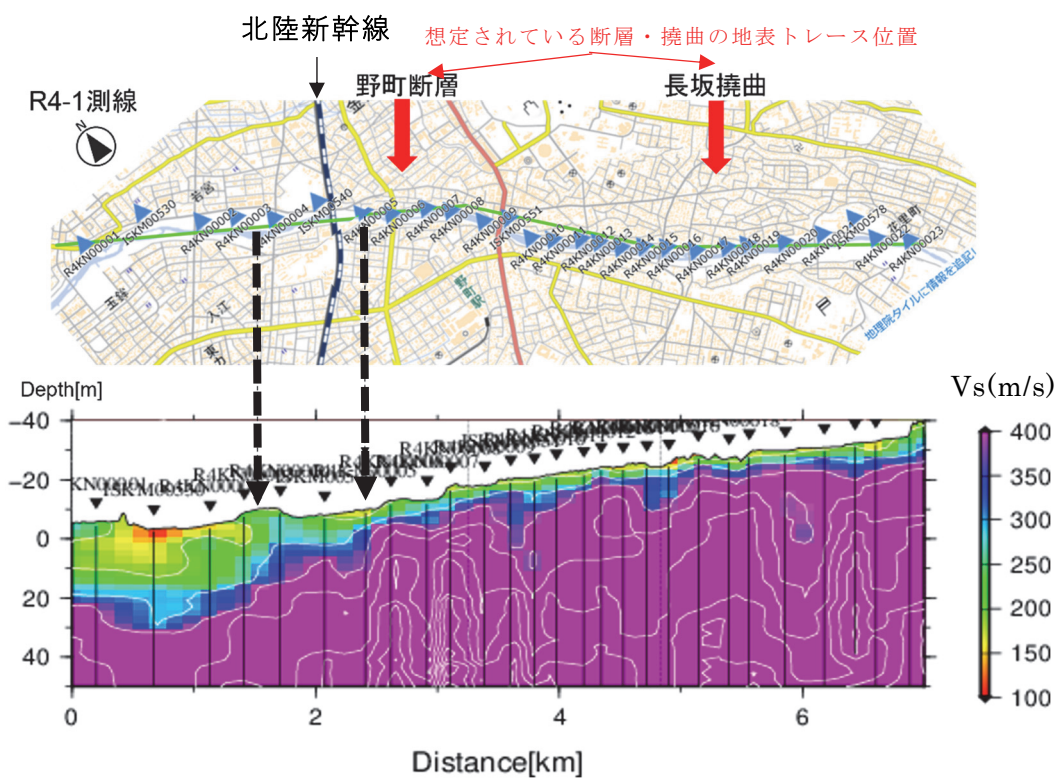
既存断層形状（産総研活断層データベース）と広域応力場をもとに計算された森本・富樫断層帯および周辺活断層の理論すべり方向

断層上盤の運動方向を矢印の向きで、各断層の ST の値を地表断層線の色で示す。矢印の色で逆断層性の運動（赤）、正断層性の運動（青）を示す（図内の断層群は全て逆断層性の運動）。地表断層線と上盤運動方向（矢印）のなす角により、横ずれ成分の大きさがわかる。断層面に付された番号に対応する断層・活動セグメント名は本文参照。

3. 1 浅部地盤構造モデルの構築



小アレイ探査結果の AVS30 分布（左図）と J-SHIS 微地形区分（右図）



反射法地震波探査（令和4年度測線（R4-1））における小アレイ観測地点と S 波速度構造断面図

3. 2 深部地盤構造モデルの構築と強震動予測



手取川扇状地における微動アレイ観測（白山市日向町）



金沢市千木町におけるボーリング掘削



金沢市下安原町におけるボーリングコア写真

各深さの左側の試料は標準貫入試験に使用したため破碎されている。

4 地域連携・地域の内在地震ハザード情報共有



令和5年度地域勉強会での参加者との質疑応答のようす
行政機関、ライフライン事業者、報道機関等呼びかけ、森本・富樫断層帯における重点的な調査観測の進捗状況に関して情報共有を行った。